

3. 歴史文化保存活用区域の保存活用

「足利中央区域」の保存活用

(1) 区域の概要

①概ねの範囲

「基本構想」にて設定した「足利中央区域」の概ねの範囲は以下のとおり。

- 現在の足利市の中心市街地を中心として、渡良瀬川北岸・南岸の平野部と周囲の山陵部を含む地域

足利中央区域は渡良瀬川北側の市街地（旧市内）と渡良瀬川南側の市街地が含まれる。渡良瀬川北側の市街地には東西に県道（元の国道 50 号線）が通り、中心市街地となっている。市役所、商工会議所、生涯学習センター等の公共施設も集中している。また、史跡足利学校跡、史跡足利氏宅跡（鏝阿寺）があり、観光客もこの区域に集中している。この地区は古くからの市街地であり、人口も集中していたが、近年ドーナツ化現象で人口が減少すると同時に、高齢化が進んでいる地域でもある。小学校も4校に統廃合された。

渡良瀬川南側には東武伊勢崎線足利市駅があり、東京方面からの玄関口となっている。トリコット団地跡には市民プラザがあり、国道 293 号線沿いには大規模店舗が進出する等、新たな市街地となっている。

区域に含まれる地区	旧市内地区、山辺地区
公民館	織姫公民館、助戸公民館
小学校区	けやき小学校、東山小学校、青葉小学校、桜小学校、山辺小学校、南小学校
中学校区	第一中学校、第二中学校、第三中学校、山辺中学校
公共施設	市役所・教育庁舎、郷土資料展示室、足利市立美術館、草雲美術館、生涯学習センター、市民会館、市民体育館、足利まちなか遊学館、太平記館、市民活動センター、総合運動場、渡良瀬グリーンプラザ、市民プラザ、保健センター、研修センター、地場産センター、中央消防署、栃木県足利庁舎、栃木県立足利図書館、警察署、税務署、足利商工会議所（友愛会館）、織物伝承館
主な公園	足利公園、大日苑（鏝阿寺）、織姫公園、有楽公園、岩井分水路緑地、あずま児童公園、本町緑地、朝倉公園、中橋緑地、八幡公園
公共交通機関	JR 足利駅、東武足利市駅、生活路線バス、佐野市営バス足利線
主な道路等	国道 293 号線、県道桐生岩舟線（旧国道 50 号線）、中橋、渡良瀬橋、田中橋、岩井橋、緑橋
主な河川等	渡良瀬川、袋川、柳原用水（さかさ川）

②足利中央区域の歴史

「足利中央区域」は渡良瀬川に注がれる河川によって形成された平地のうち最も広い、名草川・袋川によって開かれた沖積地を中心とする。中央区域を取り囲むように足尾山塊からなる丘陵が連なり、中央には渡良瀬川が流れている。

古代の足利郡衙、足利駅、藤原姓足利氏・源姓足利氏による拠点施設、中世の足利氏居館の配置、足利学校の設置、長尾氏による岩井山城・足利城と城下の整備、近世・足利藩陣屋の設置とまちの整備、近代のまちの発展等、この区域は古代以来、政治、経済、文化の中心となっている。

表：足利中央区域の歴史的変遷(1/3)

時代		主な出来事	足利中央区域に残る主な文化財
原始	縄文時代 ～ 弥生時代	<ul style="list-style-type: none"> 本城から足利公園の丘陵部、八幡山から明神山丘陵とその縁辺の微高地上にかけては縄文から弥生時代の人々が暮らしていた痕跡がある。 特に丸山耕地遺跡や反過遺跡等の微高地上にある遺跡は縄文時代から古代にかけての集落遺跡である。 	<ul style="list-style-type: none"> ●丸山耕地遺跡 ●反過遺跡 ●足利公園遺跡 ●八幡山遺跡 ●明神山遺跡
	古墳時代	<ul style="list-style-type: none"> この区域に古墳時代前期の古墳は見られないが、反過遺跡、助戸・勸農遺跡、国府野遺跡、下八幡遺跡等の集落が見られる。古墳時代後期には集落が増え、それに伴い群集墳が激増している。 古墳時代中期には助戸十二天古墳、勸農車塚古墳等を代表する古墳が築造される。 古墳時代後期には機神山山頂古墳や足利公園3号墳、助戸山3号墳などの30m規模の前方後円墳を中心とした群集墳が造営される。群集墳は、現在は渡良瀬川によって分断されているが、浅間山、八幡山、明神山にかけての丘陵にも分布し、古墳時代後期に丘陵部を中心に群集墳が築かれた様子がうかがえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●足利公園古墳群 ●機神山山頂古墳 ●助戸山3号墳 ●八幡山古墳群 ●明神山古墳群 ●丸山耕地遺跡 ●助戸・勸農遺跡 ●反過遺跡
古代	奈良時代	<ul style="list-style-type: none"> 中央集権・律令国家体制の影響に伴い、足利郡にも郡衙が設置され、現在のJR足利駅周辺の国府野遺跡が足利郡の推定地である。東山道の駅は西宮町から緑町にかけてが有力な候補地である。条里制と呼ばれる土地区画制度が導入され、田中朝倉条里跡で水田跡が確認されている。 また、浅間山丘陵に瓦窯跡が知られ、注目される。 織姫山の丘陵部に行基平とういう地名があり、山麓にある徳正寺は行基によって開かれたとされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●国府野遺跡 ●助戸・勸農遺跡 ●新田町遺跡 ●反過遺跡 ●田中朝倉条里跡 ●田中古窯跡 ●徳正寺
	平安時代	<ul style="list-style-type: none"> 藤原姓足利氏により足利城が築かれる(伝承)。 通り5丁目と緑町の八雲神社は藤原姓足利氏によりまちの鎮守として勧請されたとされ、藤原姓足利氏の拠点が西宮町から緑町にかけての地域と推定される。 奥州合戦に向かう源義家が乱を平定するための祈願として八幡宮を勧請した。 「大将陣」に義家が陣を張ったとの伝承あり。 平安時代に小野篁によって足利学校が創設されたとの説がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●足利城跡 ●八雲神社 ●栄町薬師堂 ●八幡宮 ●大将陣 ●源氏屋敷跡
中世	鎌倉時代	<ul style="list-style-type: none"> 源姓足利氏の棟梁・足利義兼が足利荘の領主となり、政治行政上の拠点として、居館を構えた。後に持仏堂が発展して鏝阿寺となる。 足利義兼により子弟の学問所として足利学校が創設されたとの説がある。 鏝阿寺から樺崎寺への道が整備され、神社等が配置される等足利氏によるまちづくりが始まる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●足利氏宅跡 ●鏝阿寺本堂 ●足利学校 ●鏝阿寺十二坊跡 ●蔵王様

表：足利中央区域の歴史的変遷(2/3)

時代	主な出来事	足利中央区域に残る主な文化財	足利中央区域に残る主な文化財
中世	鎌倉時代	<ul style="list-style-type: none"> ・ 義兼の子・義氏により鑊阿寺の十二坊が整備される。 ・ 歴代の足利氏棟梁等により寺院が創建された。 ・ 義兼の孫・泰氏が関東の武者を鑊阿寺に集めたとされる(この故事をもとに鎧年越しが始まる)。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 法玄寺 ● 法楽寺 ● 吉祥寺
	室町時代	<ul style="list-style-type: none"> ・ 足利荘の支配をめぐる室町将軍家と鎌倉公方家が争う。応永から永享にかけて鑊阿寺本堂の大規模な修理が行われる。 ・ 永享4年(1432) 関東管領上杉憲実により、足利学校が再興される。 ・ 文正元年(1466) 長尾景人が代官として勸農(岩井山城)に入る。その後、足利城(両崖山城)を修理し、移る。周辺が城下町として整備される。 ・ 応仁元年(1467) 長尾景人が足利学校を現在の場所に移す。 ・ 足利学校が学徒三千人を集めたといわれるほど盛況となり、イエズス会の宣教師らによって西欧にも喧伝される。 ・ 足利学校の孔子像が造られる。 ・ 連歌師・宗長が足利を訪れる。鑊阿寺十二坊の学頭・千手院に逗留する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 足利学校孔子像 ● 鑊阿寺一切経堂 ● 岩井山城跡 ● 足利城跡 ● 長林寺 ● 心通院 ● 富士山城跡 ● 尻無山城跡 ● 浅間山城跡 ● 坊主山城跡 ● 長尾弁天
近世	江戸時代	<ul style="list-style-type: none"> ・ 足利学校と鑊阿寺が徳川幕府の庇護を受ける。 ・ 足利は幕府直轄地と旗本領等となる。 ・ 寛文7年(1667) 柳原用水が開削され、農業用水として利用される。 ・ 寛文8年(1668) 徳川幕府の援助により足利学校の孔子廟が再建される。 ・ 足利藩が雪輪町に陣屋を構える。 ・ 交通路の整備等により江戸や他地域との交流が盛んになり、文化・経済が発展する。 ・ 通りに様々な商店が軒を連ねるようになり、まちの賑わいが新田町(東方)へ広がる。 ・ 渡辺崋山が足利学校を訪れ、孔子坐像の胎内銘を見る。 ・ 田崎草雲により誠心隊が組織され、まちの治安が守られた。 ・ 田崎草雲らにより鑊阿寺本堂等が改修され、木村半兵衛が太鼓橋を建設した。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 足利学校孔子廟 ● 鑊阿寺多宝塔 ● 鑊阿寺太鼓橋 ● 足利藩陣屋跡 ● 物外軒 ● 柳原用水
近代	明治時代	<ul style="list-style-type: none"> ・ 明治4年(1871) 廃藩置県により足利県となる。11月に栃木県となる。 ・ 明治5年(1872) 足利学校が廃校となる。猿田河岸の物外軒茶室が現在地に移転する。 ・ 明治7年(1874) 足利町となる ・ 明治11年(1878) 田崎草雲が白石山房を建て、アトリエとする。 ・ 明治13年(1880) 現在の通り5丁目に足利織物上買場、同16年(1883) 現在の伊勢町1丁目に下買場が開かれる。 ・ 明治17年(1884) 栃木県令三島通庸により三間道路が建設される。 ・ 明治18年(1885) 現在の今福町に足利織物講習所(後の県立足利工業高校)が開所される。 ・ 明治19年(1886) 坪井正五郎により我が国で初めての日本人による近代的な古墳発掘調査が行われた。 ・ 明治21年(1888) 両毛鉄道が開通する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 足利公園古墳 ● 白石山房 ● 足利・梁田郡役所跡 ● 旧木村輸出織物工場 ● 荻野家住宅 ● 松村家住宅 ● 柳田家住宅 ● 原田家住宅 ● 民家 ● 住宅庭園

表：足利中央区域の歴史的変遷(3/3)

時代	主な出来事	足利中央区域に残る主な文化財	時代
近代	明治時代	<ul style="list-style-type: none"> ・ 明治 23 年（1890）田崎草雲が帝室技芸員となる ・ 明治 25 年（1892）木村輸出織物工場が建設され、織物の本格的な工場生産が始まる。 ・ 明治 28 年（1895）足利銀行が創業される。 ・ 明治 34 年（1901）猿田河岸の長四郎三邸内にあった物外軒茶室が柳田市郎右衛門邸内の現在地に移転される。 ・ 明治 36 年（1903）足利模範撚糸工場が建設される（現アンタレススポーツクラブ）。足利学校遺蹟図書館開館。第 1 回足利花火大会開催。 ・ 明治 40 年（1907）東武鉄道川俣～足利間が開通する。 ・ 足利町に電話、電気が入る。 ・ 郡立足利高等女学校（後の県立足利女子高校）が開校する。 	（前ページ参照）
	大正時代	<ul style="list-style-type: none"> ・ 織物産業が発展し、近代的な織物工場がつくられるようになる。 ・ 柳原用水に染色工場が急増する。 ・ 大正 4 年（1915）第 1 回鑑行列が行われる。私立足利裁縫所学校（後の白鷗大学足利高校）が開校する。 ・ 大正 10 年（1921）市制施行。県立足利中学校（後の県立足利高校）が開校する。 ・ 大正 14 年（1925）私立足利実践女学校（後の足利短期大学付属高校）が開校する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●旧足利模範撚糸工場（現アンタレススポーツクラブ） ●近代化遺産 ●工場跡 ●民家 ●住宅庭園
	昭和時代	<ul style="list-style-type: none"> ・ 織物産業の興隆に伴い、都市基盤が整備される。 ・ 足利銘仙が全国生産高 1 位となる。 ・ 昭和 3 年（1928）『足利市史』発行。 ・ 昭和 4 年（1929）長林寺本堂が小林福太郎の設計により再建される。 ・ 昭和 5 年（1930）に緑町配水場、今福浄水場が建設され、同 6 年（1931）水道の給水事業が開始される。 ・ 昭和 6 年（1931）私立足利盲学校が現在の相生町に建設される。 ・ 昭和 8 年（1933）足利駅舎が改築される。 ・ 昭和 9 年（1934）渡良瀬橋を鉄橋に架け替える。 ・ 昭和 10 年（1935）足利市歌・市旗制定される。 ・ 昭和 12 年（1937）中橋竣工する。織姫神社が小林福太郎の設計により再建される。 ・ 太平洋戦争はじまる。 ・ 昭和 20 年（1945）織姫神社前通り・昭和通りが強制疎開となり、道路が拡幅される（疎開道路）。 ・ 太平洋戦争終戦 ・ 昭和 21 年（1946）商工会議所が設立される。 ・ キャサリン台風により大きな被害を受ける。 ・ 昭和 24 年（1949）足利花火大会が 12 年ぶりに復活する。 ・ トリコット産業が盛んとなり、昭和 35 年（1960）朝倉町にトリコット工業団地が造成される。昭和 41 年（1966）には生産が日本一となる。 ・ 昭和 41 年（1966）市民会館が完成する。岩井橋が開通する。 ・ 昭和 44 年（1969）草雲美術館が足利公園に開館する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●渡良瀬橋 ●中橋 ●織姫神社 ●近代化遺産 ●住宅庭園 ●足利銘仙 ●友愛会館（旧足利銀行） ●長林寺本堂
現代			

③主な文化財

上記の「足利中央区域」に位置する主な文化財を関連文化財群別にみると以下のとおり。

表：関連文化財群別にみた「足利中央区域」に位置する文化財

関連文化財群	主な文化財
A. 古墳	<ul style="list-style-type: none"> ◆古墳／八幡山古墳群、足利公園古墳群、機神山山頂古墳 等 ◆出土遺物／古墳出土品[郷土資料展示室] ◆足利公園古墳発掘調査に関わる施設／足利公園、足利学校跡 ◆足利公園古墳発掘調査時の交流の場／白石山房（草雲美術館）、相洲楼
B. 足利郡と梁田郡	<ul style="list-style-type: none"> ◆郡衙跡／国府野遺跡 ◆集落跡等／丸山耕地遺跡、田中朝倉条里跡、反過遺跡 ◆寺院・寺院跡／徳正寺 ◆神社（藤原姓足利氏による創建）／八雲神社（緑町）、八雲神社（通5丁目） ◆神社（源氏による創建）／八幡宮（八幡町）
C. 足利氏	<ul style="list-style-type: none"> ◆足利氏の政治・行政上の拠点／足利氏宅跡（鏝阿寺） ◆寺院（源姓足利氏による創建、庇護）／法玄寺、法楽寺、吉祥寺 ◆祭り・行事等／鎧年越（鏝阿寺） ◆城館跡（長尾氏・長尾氏家臣等による造営）／岩井山城跡、足利城跡 富士山城跡等
D. 足利学校	<ul style="list-style-type: none"> ◆学校跡／足利学校跡 ◆行事／釈奠、曝書、論語の素読
E. 交流と発展	<ul style="list-style-type: none"> ◆陣屋跡／足利藩陣屋跡 ◆まちの地割／路地のあるまち、三間道路 ◆用水路／柳原用水
F. 織物産業	<ul style="list-style-type: none"> ◆織物産業関連の工場／足利模範撚糸工場 等 ◆織物産業関連の住宅／原田家住宅、柳田家住宅 等 ◆神社／織姫神社 ◆祭り／まゆ玉市、足利の花火、恵比寿講 ◆近代土木施設・建造物／渡良瀬橋、中橋、今福浄水場、緑町配水場（水道山記念館）等
G. 田崎草雲	<ul style="list-style-type: none"> ◆田崎草雲アトリエ等／白石山房（草雲美術館） ◆文人サロン／足利学校跡、法玄寺、高福寺、法楽寺 ◆近世寺院庭園／徳正寺庭園、法楽寺庭園 ◆住宅庭園／物外軒庭園
H. 折り	<ul style="list-style-type: none"> ◆祭り／浅間神社のペタンコ祭り、雷電神社の神楽、絵馬 ◆現代に息づく民間信仰の地／五霊宮、延命地藏、井草閻魔堂 等
I. かかあ天下	<ul style="list-style-type: none"> ◆北条時子関連の建造物・記念碑等／鏝阿寺蛭子堂、鏝阿寺中御堂、伝北条時子五輪塔（法玄寺） ◆女性教育の地／足利女子高、上岡学園
J. 山・川・平野	<ul style="list-style-type: none"> ◆信仰の対象となった自然／両崖山 ◆芸術の対象となった自然／渡良瀬川と渡良瀬橋

(2) 区域の現状と課題

歴史文化保存活用区域の設定の意義を踏まえ、文化財を中心とした面的な環境の質の向上と歴史文化を活かしたまちづくりの推進を目的として、歴史文化保存活用区域の保存活用に係る現状を整理し、課題を整理する。

①現状

歴史文化保存活用区域「足利中央区域」における現状を、文化財、自然環境、法規制等、まちづくり、施設等の視点から以下のとおりに整理する。

＜文化財＞ →「図：「足利中央区域」周辺における文化財の分布状況」参照

- 「基本構想」で設定した 10 の関連文化財群を構成する文化財のいずれかが、区域内に位置し、他の歴史文化保存活用区域に比べて**最も多種多様な文化財が集積**している。
- まちの中心地は古代・中世・近世・近代を通じてこの区域であり、県道桐生岩舟線（旧国道 50 号線）は、少しずつ位置を変えながらも古代から現代まで足利のメインストリートとして機能してきた。
- 足利学校、鏝阿寺、白石山房（草雲美術館）、足利公園古墳（足利公園）等、これまで多くの来訪者に親しまれ認知されている、**足利の歴史文化を物語る代表的な文化財が位置**する。
- 特に足利学校は知名度も高く、市外からの参観者も多く年間 17 万人を超える。また、論語の素読や各種文化財講座、足利学校アカデミーの開催等により市民による利用も多い。
- 渡良瀬川北岸の JR 足利駅から足利公園にかけての地域には、織物産業関連の工場のうち特に足利友禅の技術を保有する染色工場（「織物産業の隆盛と近代化するまちのものがたり」）や住宅庭園（「田崎草雲を生み出した足利の芸術文化のものがたり」）等、**同種の文化財がまとまって点在**している。また、柳原用水のように**線的に伸びる文化財**も位置する。
- 「節分鎧年越」、「八雲神社の神輿」、「夏祭りの子供みこし」のように**まちなかを舞台として行う無形文化財**がある。
- 織物伝承館では足利銘仙を始めとする足利織物に関する資料を展示するほか、染色や織の体験ができるようリニューアルした。
- 雷電神社や西宮神社では市指定の無形文化財の神楽が奉納される。
- ペタンコ祭り、まゆ玉市や恵比寿講、足利花火大会等の伝統行事が行われ、市の内外から多くの人が訪れる。
- 世界遺産登録への取組みの中で足利学校を中心に調査・研究が進められている。



写真：柳原用水
（線的に伸びる文化財）



写真：節分鎧年越し（出典：足利百景）

<自然環境> →「図：「足利中央区域」周辺における自然環境、施設、既存ルート等の状況」参照

- 区域のほぼ中央を、西から東にかけて**渡良瀬川**が横断する。
- 区域の北部には**袋川**が北から南にかけて流れ、渡良瀬川へと繋がっている。
- 渡良瀬川北岸は、平坦地を中心として、西の両崖山から連なる山稜と東の助戸東山の**山稜に囲まれている**。また、渡良瀬川の南岸には、同河川に近接する形で浅間山の山稜が位置し、その周辺に平坦地が広がる。

<法規制等> →「図：「足利中央区域」周辺の都市計画図」参照

- 区域の中心部は商業地域、近隣商業地域等に、その周辺部は第一種住居地域、第二種住居地域に指定される等、平坦地のほとんどは**都市的な土地利用**のための区域となっている。
- 足利学校・鏝阿寺周辺及び平坦地を取り囲む両崖山、助戸東山、岩井山、浅間山等の山稜及び小河川（旧袋川）等、**自然環境が残る地域が風致地区に指定**されている。

<まちづくり>

- 都市計画マスタープラン、景観計画等において、**足利学校・鏝阿寺周辺の整備・景観づくり、緑地保全**が求められている（過去には足利学校・鏝阿寺周辺の石畳整備、雪輪町の歩行者空間整備（電線地中化）等が実施されている）。
- 景観計画において、**渡良瀬川に架かる橋梁**については、重要なランドマークとしてその整備・保全、周辺の景観づくりが求められている。
- 足利学校・鏝阿寺周辺は修景補助制度により景観の保護を進めている。
- 渡良瀬川南部・旧トリコット団地地区は大規模な商業施設が集中しており、新市街地化されている。
- 足利商工会議所では「まちおこし探偵団」事業で文化財を活用してまちおこしを実施する団体も支援しているほか、足利銘仙を活用したまちの活性化を進めている。



写真：足利学校・鏝阿寺周辺の整備された石畳

<観光>

- 足利学校・鏝阿寺を中心に歴史と伝統のあるまち「足利」の魅力を紹介し、観光PRを実施している。
- 足利市の観光拠点である太平記館で足利市無形文化財「八木節」の公演を行っている。
- まちなか遊学館では、八丁燃系機械の動態展示、足利銘仙、足利銘仙ポスターなどを展示している。
- 足利市観光協会では足利市観光案内人を組織し、メンバーは足利学校について学習し、希望する団体に足利学校を案内している。
- 足利市観光協会ではホームページやパンフレット等で足利の年中行事や文化財についての情報を発信している。
- 生涯学習センターにおける「あしかが学」受講者により「市民目線で見えた足利観光散策マップ」が提案され、足利の中心部の「足利まちなかウォーキング」が作成された。

- 足利商工会議所では友愛会館に「まち歩きミュージアム」を運営し、足利の人、歴史、観光、企業とまちの成立ちを紹介し、出土品を中心とした文化財も多数展示している。

<文化財の保存活用に関連する施設等>

→「図：「足利中央区域」周辺における自然環境、施設、既存ルート等の状況」参照

- 足利学校、まちなか遊学館、友愛会館、足利市立美術館、草雲美術館、足利市郷土資料展示室、織物伝承館等、**文化財の収集・展示等を行っている施設が小規模、かつ分散して位置する。**
- 現在、文化財の保存活用に関する取組みを行っている**市民団体等の活動の拠点となる場が不足**している。
- JR 足利駅、東武足利市駅が区域内に渡良瀬川を挟んで位置し、**広域からの来訪者のアクセスの拠点が2箇所に位置する。**
- 文化財めぐりマップ、ハイキングコース、七福神めぐり、散策ルート等、**文化財等を巡ることができる様々なルート**が既に設定されている。



写真：友愛会館

②保存活用の課題

以上のような各種の状況を踏まえると、歴史文化保存活用区域「足利中央区域」の保存活用の課題は以下のとおりに整理できる。

- 多種多様な文化財、足利の歴史文化を物語る代表的な文化財が集積するという特性を活かし、足利における歴史文化のまちづくりの顔となるような保存活用のための拠点の創出、既存施設の効果的な活用
- 文化財の特性や立地環境等を踏まえ、点在する様々な文化財が相互に連携し、効果的な保存活用を展開できるためのネットワークの創出
- 自然環境、土地利用と調和した「足利中央区域」の環境・景観の創出・保全
- 文化財関係団体やまちづくりに関する市民団体、民間団体と行政の連携・協働

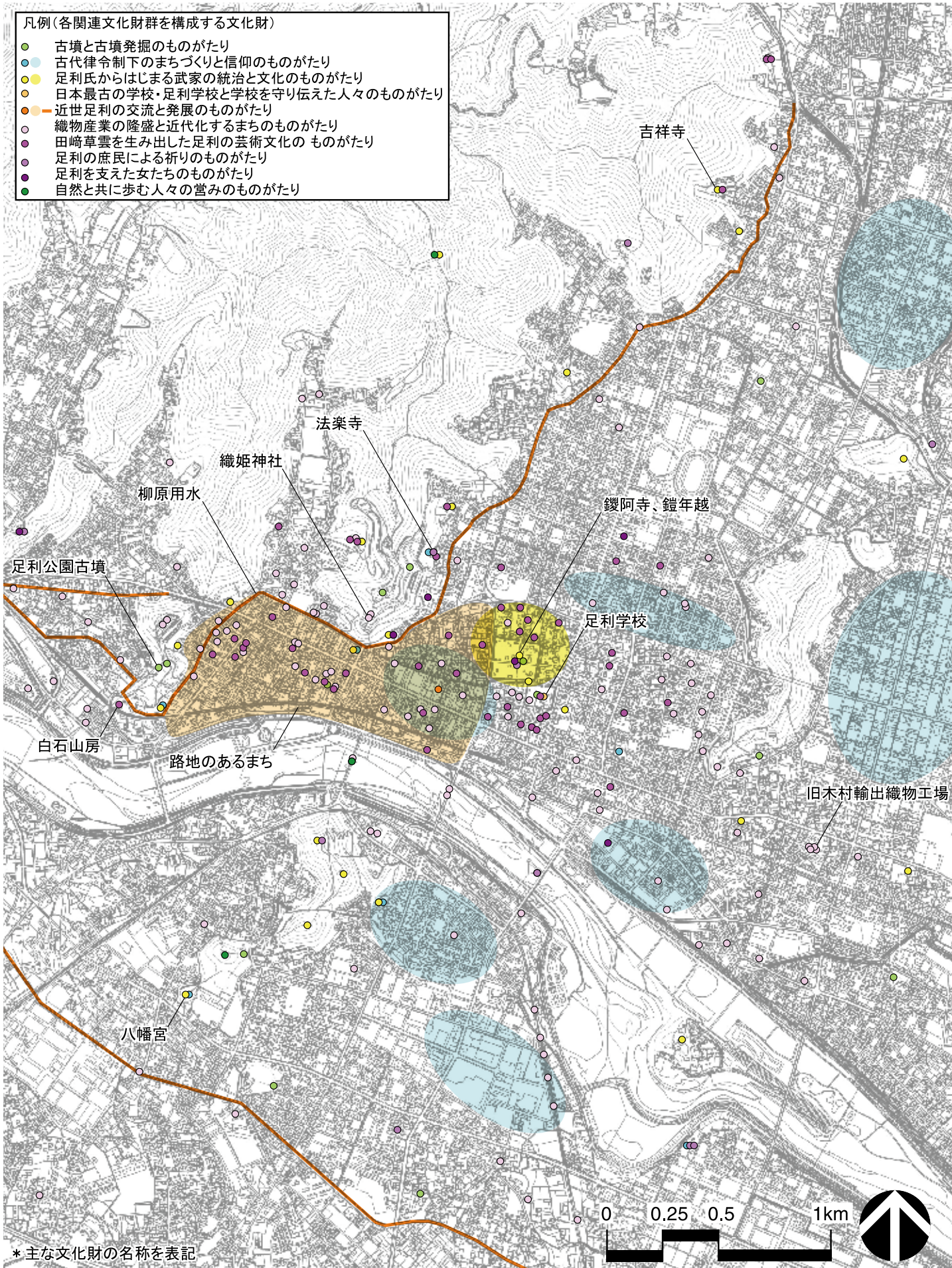
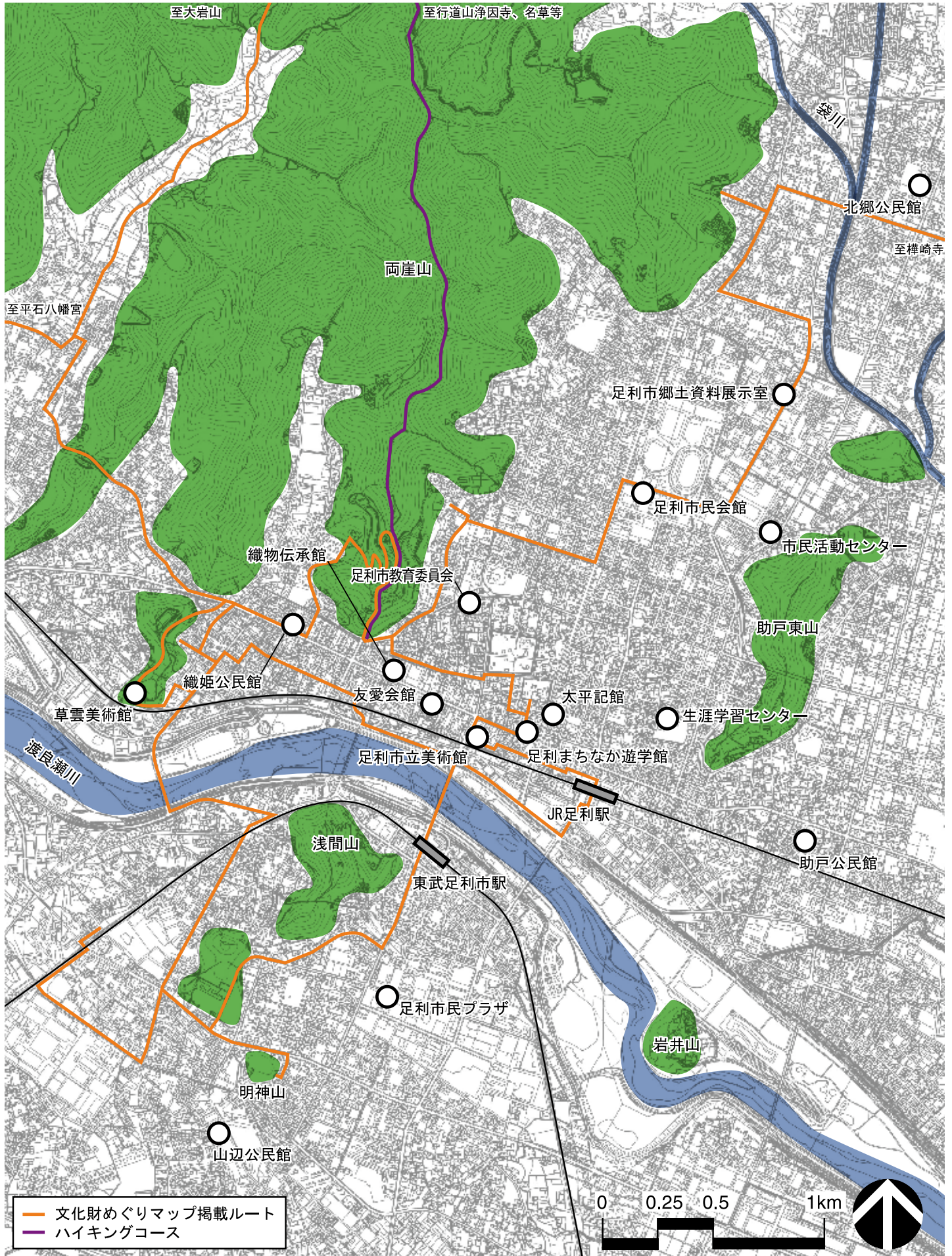
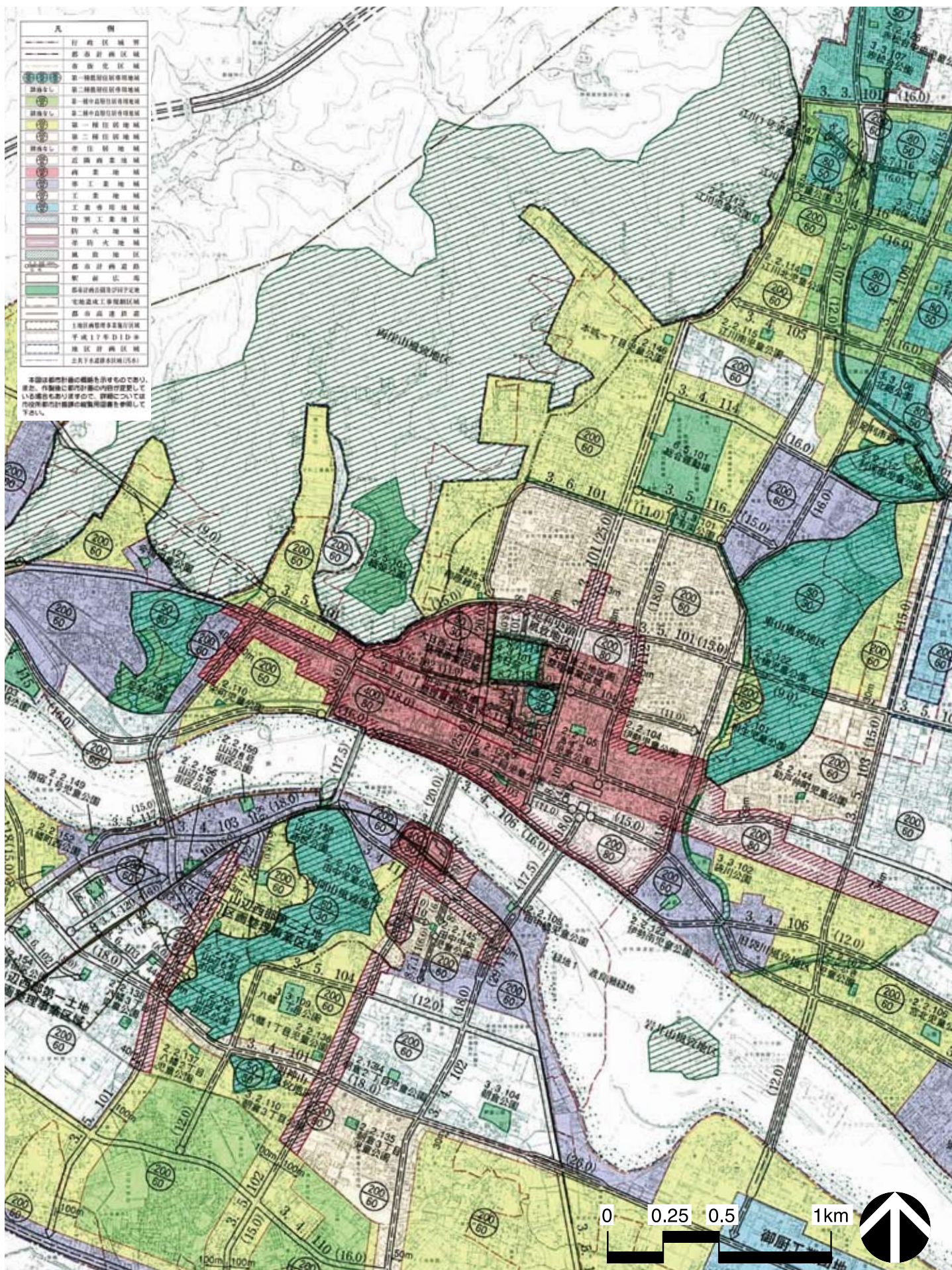


図:「足利中央区域」周辺における文化財の分布状況



図：「足利中央区域」周辺における自然環境と施設等の状況



図：「足利中央区域」周辺の都市計画図

(3) 区域の保存活用の考え方と展開手法

前項で整理した現状と課題を踏まえ、「足利中央区域」における保存活用の考え方と展開手法を以下のとおりに整理する。

①保存活用の考え方

「足利中央区域」における保存活用は、以下に示す3つの考え方を基本とする。

a. 拠点の創出

足利の歴史文化を活かしたまちづくりの顔となり、文化財の保存活用における様々な取り組みを展開できる拠点を創出するとともに既存施設を効果的に活用する。

b. ネットワークの創出

区域内に点在する様々な文化財、特に足利の歴史文化を表す代表的な文化財の連携を強化し、効果的な保存活用が展開できるネットワークを創出する。

c. 環境・景観の創出及び保全

市民・来訪者等が足利の歴史文化を体感できるよう、文化財とその周辺環境が一体となった文化の薫り高い環境・景観を創出及び保全する。

②保存活用の展開手法

「足利中央区域」においては、上記の保存活用の考え方を踏まえ、以下の展開手法を適材適所に適用しながら、保存活用の取組みを推進する。

イ. 施設整備・環境整備

文化財の周辺環境において、文化財の保存活用を支援するための施設整備・環境整備を行う。

ロ. 保全措置

法令等に基づく開発行為等の規制を行い、環境・景観の保全措置を講じる。

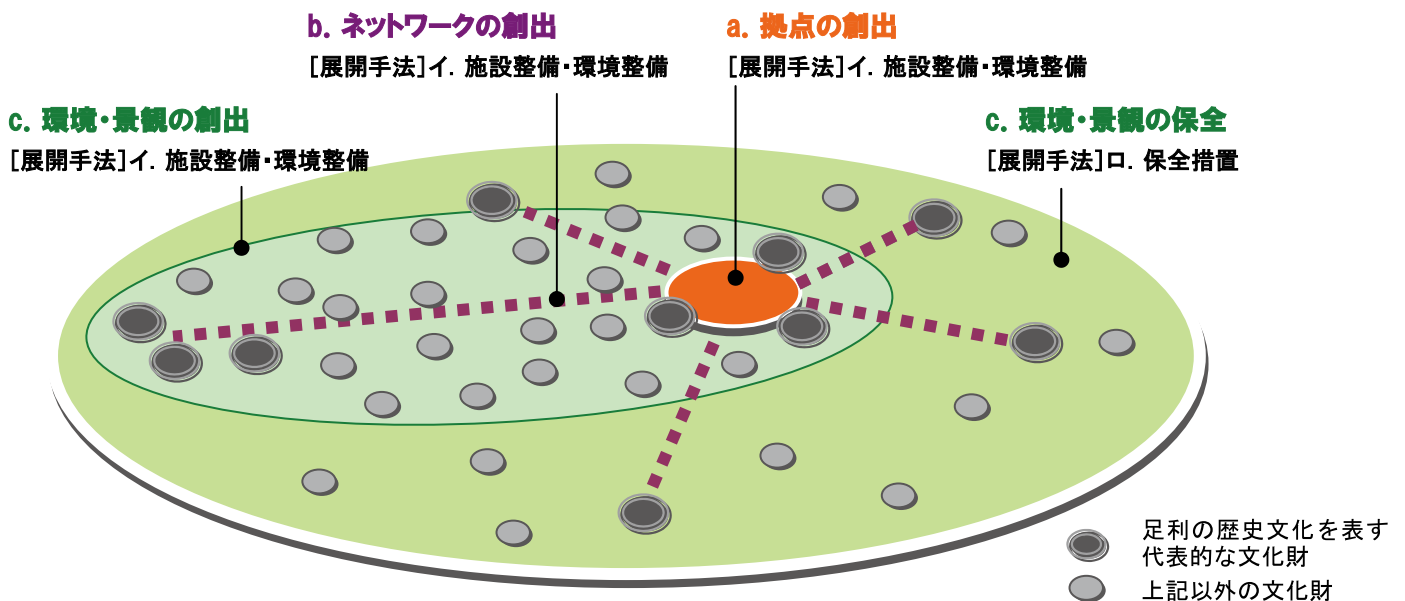


図:「足利中央区域」の保存活用の考え方と展開手法(概念図)

(4) 保存活用の取組みの方向性

前項で整理した保存活用の考え方、展開手法を踏まえ、「足利中央区域」における保存活用の取組みの方向性を以下のとおりに整理する。

①施設整備・環境整備

施設整備・環境整備としては、主として以下の取組みを推進する。

<取組みの方向性>

● 保存活用拠点施設の整備 → 「a. 拠点の創出」のために

足利の歴史文化を活かしたまちづくりの顔となり、文化財の保存活用における様々な取組みを展開できる拠点として、保存活用拠点施設の整備を図る。現状や課題を踏まえ、当該施設には概ね以下に示す機能が求められ、そのような機能が効果的に発揮されるためには、以下に示す考え方での配置をする必要がある。

[求められる機能]

- ・文化財の収蔵・展示機能
- ・文化財の保存活用を中心とする市民の活動の支援機能
- ・来訪者へのガイダンス機能（足利の歴史文化に関する総合的な情報提供）
- ・調査・研究機能

[配置の考え方]

- ・広域からの来訪者のアクセス拠点に近接する箇所への配置
- ・既存施設との機能補完等を行う上で効果的な場所への配置
- ・足利の歴史文化を物語る代表的な文化財に近接する場所への配置

● ネットワークルートの整備 → 「b. ネットワークの創出」のために

上記の保存活用拠点施設や足利の歴史文化を表す代表的な文化財間を結ぶネットワークルートの整備を図る。足利の歴史文化を表す代表的な文化財、保存活用拠点施設等の配置を踏まえると、ネットワークルート整備の考え方として、以下のような点が挙げられる。

[ネットワークルート整備の考え方]

- ・線的に伸びる文化財である柳原用水の活用（用水沿いへのルートの整備）
- ・既存の各種文化財めぐりルート等の活用（環境整備）等

● エリアとしての環境整備 → 「c. 環境・景観の創出」のために

路地が残る旧市内一帯のように、建物・庭園等の文化財がまとまって集積するエリアについては、文化財と周辺の街並み等が調和した文化の薫り高い空間となるよう、各種の環境整備を図る。環境整備の内容としては以下のような取組みが考えられる。

[環境整備（案）]

- ・電線の地中化
- ・舗装の整備
- ・統一感のあるストリートファニチュア等の整備
- ・足利学校・鑱阿寺周辺で実施されている修景補助の範囲を拡大し、街並みを構成する文化財以外の建物等の修景を保護する。

②保全措置

保全措置としては、関係機関との調整の上、主として以下の取組みを推進する。

<取組みの方向性>

● 法規制等による環境・景観への保全措置 → 「c. 環境・景観の保全」のために

自然環境、土地利用等の観点を踏まえ、文化財を中心として景観的に一体的と捉えられる範囲については、新たな法規制等の適用を検討し、環境・景観の保全措置を図る。

③その他（関連文化財群としての各種取組みとの連携）

前述したように、本区域には、あらゆる関連文化財群を構成する文化財が点在している。そのため、関連文化財群としての各種保存活用の取組みについても、上記で推進する拠点、ネットワーク、エリアの創出と相互に連携した早期の取組みの展開が期待される。

● 産業部局、観光部局、業界団体との連携

現時点で考えられる主な取組み（例）は以下のとおり。

[取組み(例)]

- ・現役で操業している「染色関連工場」を公開した、染色体験イベント等の開催
→ネットワークとして位置づけている柳原用水沿いの「染色関連工場」の活用
- ・飲食利用・休憩利用等による庭園の鑑賞
→庭園を有する飲食店・商店等の活用



写真：染色工場

- 凡例(各関連文化財群を構成する文化財)
- 古墳と古墳発掘のものがたり
 - 古代律令制下のまちづくりと信仰のものがたり
 - 足利氏からはじまる武家の統治と文化のものがたり
 - 日本最古の学校・足利学校と学校を守り伝えた人々のものがたり
 - 近世足利の交流と発展のものがたり
 - 織物産業の隆盛と近代化するまちのものがたり
 - 田崎草雲を生み出した足利の芸術文化のものがたり
 - 足利の庶民による祈りのものがたり
 - 足利を支えた女たちのものがたり
 - 自然と共に歩む人々の営みのものがたり

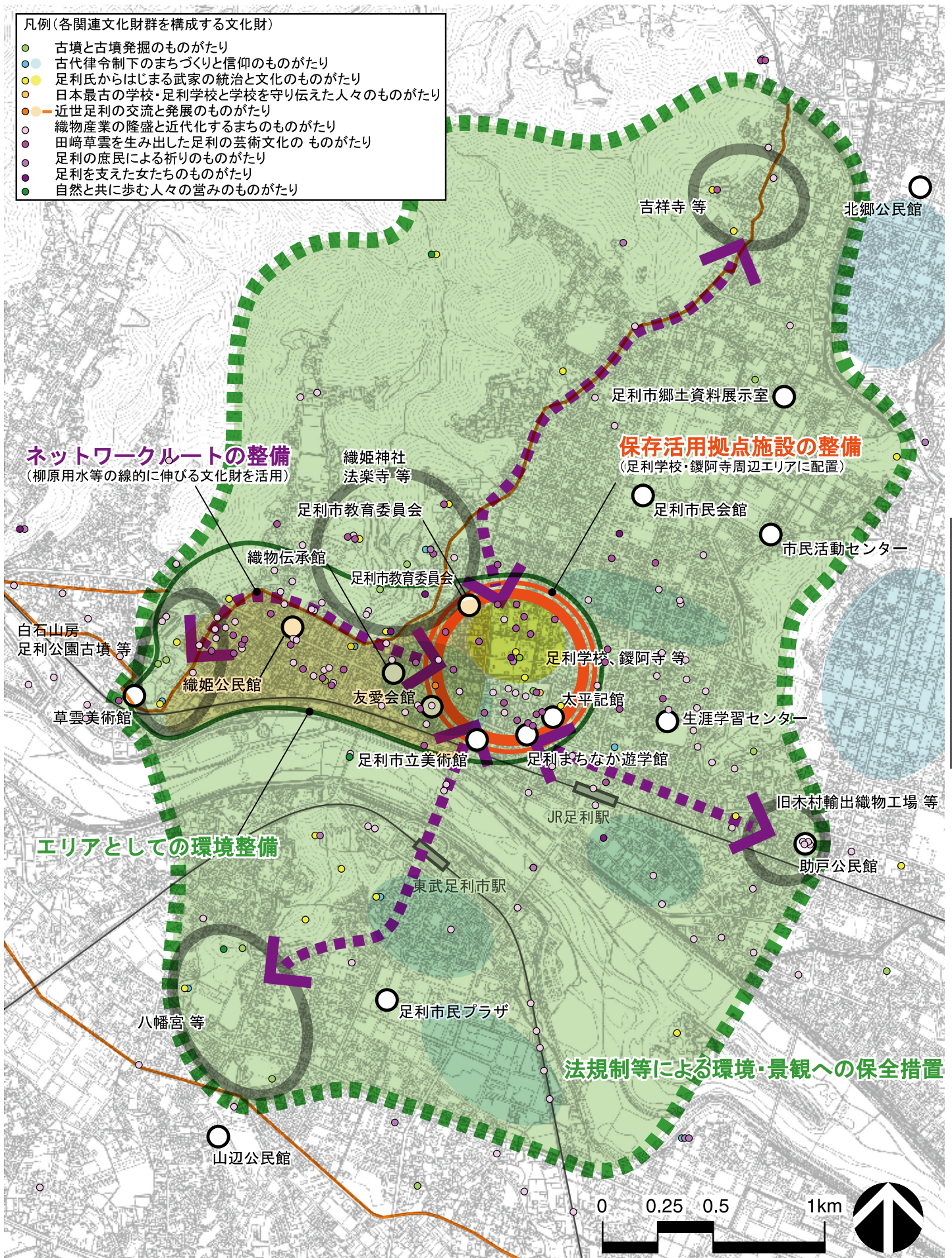


図:「足利中央区域」における保存活用の取り組み概念図